



大宮駅上空からの写真。手前の高層ビルがシーノ大宮・ソニックシティ。奥に見えるのが大宮公園と氷川参道。

大宮駅は、新幹線5路線を含む鉄道12路線が乗り入れ、一日の乗降客数が約60万人に上る交通の要衝であり、東口は古くから氷川神社の門前町として栄え、江戸時代には中山道の宿場町として発展した歴史を持ち、西口は区画整理事業や再開発事業が進み、駅周辺は県内最大のビジネス街、ショッピング街として発展してきました。

現在、建築物の老朽化等により都市機能の更新が必要となっており、大宮駅周辺地区を政令市に相応しい都心地区として、また首都圏や東日本をリードする様々な魅力をもつ広域交流拠点として形成していくため、大宮駅を中心に東口周辺、西口周辺の約190haのエリアを対象として、既存の「大宮駅東口都市再生プラン」を包含した形で新たなビジョンづくりに取り組んでいます。

■大宮駅東口地区の再生 大宮駅東口都市再生プラン等

大宮駅東口周辺において100万都市の表玄関にふさわしいまちづくりを進めていくため、平成14年に市民や地域の方々と行政との協働により新たなまちづくりを推進するための基本的な方向を明らかにする「大宮駅東口都市再生プラン」を策定しました。本プランの骨格的内容として、4つの都市軸（大宮中央通線、氷川緑道西通線、氷川参道、中山道）及び3つの都市拠点（駅前周辺地区、大宮区役所周辺地区、市民会館周辺地区）の整備を位置づけております。

現在は、まちづくりに対する地元からの要望や各種事業の推進状況を踏まえながら、地区全体におけるプランの具現化方策について検討を行っています。

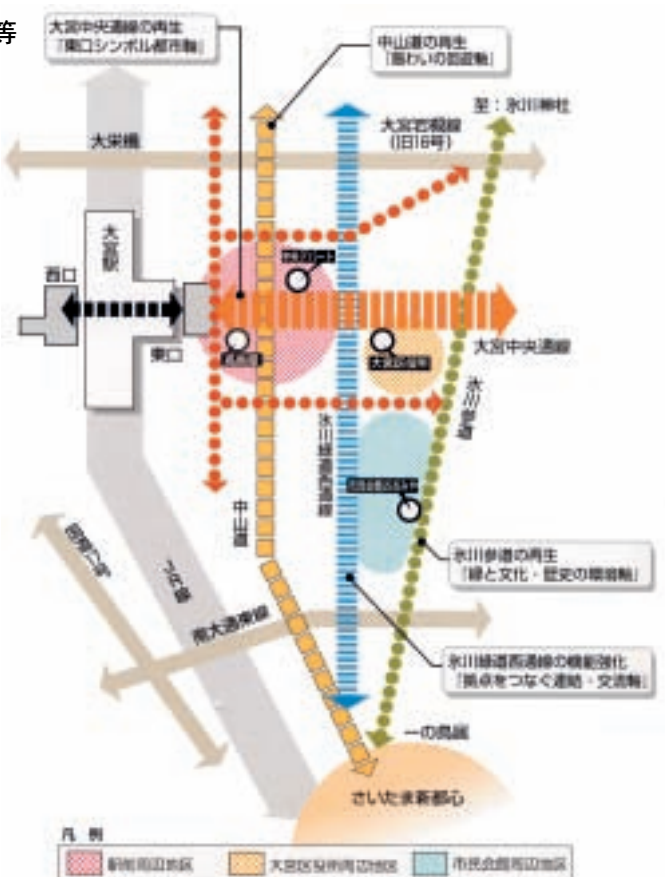
本プランでは、緊急的課題である駅前交通の改善に寄与するとともに全体のまちづくりへの波及効果が見込める次の2事業をリーディング事業と位置づけ、積極的な推進を図っています。

○複合交通拠点及び駅前の整備

大宮駅東口駅前広場の一部交通機能を分離し、複合交通拠点にバスターミナルを整備することによって、公共交通機能の強化を図ります。また、バスターミナル機能の分離に伴い、駅前広場の改善を図るとともに、権利者等とのパートナーシップにより沿道街区のまちづくりを促進します。

○氷川緑道西通線の整備

中山道の渋滞緩和を図り、氷川参道の歩行者専用化を促進するため、各拠点を繋ぐ南北軸を形成します。



■大宮駅西口のまちづくり 鐘塚A地区再開発、大宮駅西口第四地区

大宮駅西口は、かつては木造家屋が密集する地区でしたが、東北・上越両新幹線計画を契機として土地区画整理事業が進み、平成2年度には大宮駅前西口地区・大宮駅西口第二地区において事業が完了しました。この事業により駅前広場や歩行者デッキなどの基盤整備が行われるとともに、ソニックシティやそごうなど近代的なビルが建ち並び、本市を代表する商業地域となりました。

平成16年2月には、大宮ソニックシティの西側約1.4ヘクタールの地区において、市街地再開発事業により、共有広場であるアトリウムを含め5棟の建築物からなる「シーノ大宮」が竣工しました。

現在は、大宮駅西口第四地区において土地区画整理事業が施行中であり、道路、公園などの都市基盤整備を進めるとともに、業務・商業機能の集積及び都市型の居住形態への誘導を図り、大宮駅前西口地区、第二地区と一体的な市街地の形成を目指しています。

事業概要

大宮鐘塚A地区第一種市街地再開発事業		大宮駅西口第四土地区画整理事業	
施行者	大宮鐘塚A地区市街地再開発組合	施行者	さいたま市
施設建築物		地区面積	9.68ha
階数	地上20階/19階/10階/6階	施行期間	平成7年度～平成25年度（予定）
商業・業務	57,932.03㎡	土地利用	
公共公益施設	7,413.88㎡	施行前	宅地84% 公共用地16%
駐車場	406台	施行後	宅地65% 公共用地35%
公共施設	国道17号線、三橋中央通線、区画道路		(道路32%、公園3%)
竣工	平成16年2月		



シーノ大宮には、業務棟を中心として、事務所、店舗、公共公益施設などが入居しています。また、2階レベルの歩行者デッキにより大宮駅や他の建物と結ばれています。

◇詳しくは大宮駅西口まちづくり事務所へ◇

■水川参道の整備

大宮の中心市街地に隣接する水川参道は、約2キロメートルに渡り緑の軸を形成していますが、大宮中央通線以南は道路としての機能も併せ持ち、通過交通や違法駐車などの交通問題や並木の緑の問題などを抱えています。

この参道を歴史と緑を生かした歩行者専用の通りへと再生することを目指し、地元のまちづくり組織や市民との協働により、参道の清掃活動、樹木調査や交通量調査、シンポジウムの開催、協議会だよりの発行などのまちづくり活動が行われています。

歩行者専用化に向けた取り組みの一環としては、これまでに、平成14年に南大通東線以北の450メートルの区間で歩車分離工事を実施しました。

さらに、平成18年度は、一の鳥居から南大通東線までの380メートルの区間において、交互通行を北向きの一方通行に変更した上で歩車分離工事を実施するとともに、参道のエントランスとして一の鳥居ひろばの整備を行いました。

平成20年度は、大宮中央通線以南の250メートルの区間において、整備方策の検討・調整を図り、平成21年度は歩車分離工事を実施していきます。

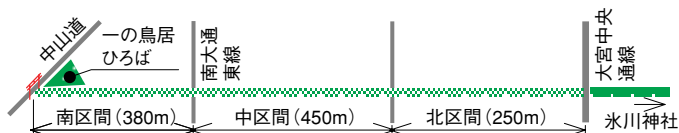


当面の段階的な対策として歩行者空間を確保するため、平成14年5月には、南大通東線以北の450メートルの区間において歩車分離工事を実施しました。



中山道の一の鳥居付近に、水川参道のエントランス空間及び交流空間を創出するため、「一の鳥居ひろば」を整備しました。

◇詳しく是水川参道対策室へ◇



水川参道

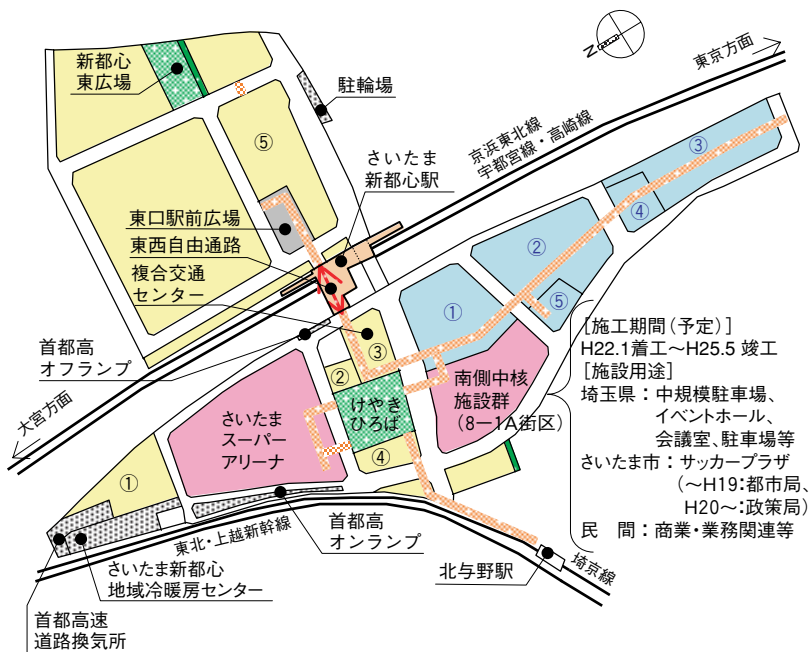
◇参道整備のこれまで

- H11年度 水川参道の地区交通対策の検討開始
- H14年度 中区間の歩車分離工事の竣工
- H16年度 歩車分離区間延伸の検討
(アンケートや交通実験の実施等)
- H17年度 南区間の詳細検討
(南区間整備の住民説明会、現況測量・実施設計等)
- H18年度 南区間の歩車分離工事の竣工

さいたま新都心周辺地区 過度の東京への依存を是正し、自立性の高い中枢都市圏を形成します。



さいたま新都心上空からの写真



【主な商業・業務関連】

- ①クラリオン(株) 本社事務所・技術センター
- ②NTTドコモさいたまビル
- ③明治安田生命 さいたま新都心ビル
- ④NTT東日本 さいたま新都心ビル
- ⑤コクーン新都心

【官庁関連】

- ①合同庁舎1号館
- ②合同庁舎2号館・検査棟
- ③日本郵政グループ さいたまビル・郵便局
- ④簡易保険総合健康増進センター「ラフレさいたま」
- ⑤公立学校共済組合宿泊施設「ホテルプリランテ武蔵野」

■ 主な歩行者デッキ (2階レベルの人工地盤)

さいたま新都心周辺地区は、東京への過度の依存を是正し、自立性の高い中枢都市圏を実現することを目的に、旧国鉄大宮操車場跡地を含む約47.4ヘクタールの区域について、都市再生機構、埼玉県及びさいたま市が連携して、都市基盤整備等を実施しました。

当地区は、関東平野の中央という地理的条件と、東北・上信越方面を含む広大な交流圏を背景として、国の機関による広域行政機能と、高次の業務・商業・文化機能が集積しています。

現在の当地区のまちづくりの課題は、大方の整備が進み、「賑わいの創出」や「安心・安全」、「持続的な景観形成」など、まちの価値を高めるマネジメントに移りつつあります。

今後も、老若男女・障害者・外国人など、様々な人が交流し活動し続けられるまちづくりを継続していくため、「行政(埼玉県、さいたま市)」、「企業(まちづくり協議会)」、「市民(ボランティア活動)」が一体となり、魅力あるさいたま新都心のまちづくりを推進していきます。

■さいたま新都心周辺地区の賑わい創出

本地区の主な事業内容は以下のとおりです。

- ・ 8-1A街区におけるサッカープラザの計画検討(平成19年度まで都市局にて所管)
- ・ 東西自由通路等の歩行者デッキの適切な維持管理
- ・ 当地区のまちづくり推進協議会を中心とした賑わいの創出、防犯等のまちづくり活動の推進
- ・ ふれあいプラザを拠点とするバリアフリーボランティアの活動の活性化等
- ・ 東西自由通路を活用した賑わいづくり、広告事業

さいたま新都心周辺地区

都市基盤の整備 さいたま新都心土地区画整理事業

本事業は、昭和59年の旧国鉄大宮操車場の機能廃止によって遊休地となった鉄道操車場跡地と線路を挟んで反対側にある工場跡地等を有効利用することにより、次世代を担うさいたま新都心を創造することを目的として行われました。

事業では、未来を担う新都心にふさわしい都市基盤施設として、さいたま新都心駅、各施設を結ぶ2階レベルの歩行者デッキ、道路、首都高

速道路、共同溝、雨水調整池などを他に例を見ないスケールで重層的・複合的に計画し、整備が進められました。

事業概要

さいたま新都心土地区画整理事業	
施行者	都市再生機構
地区面積	47.4ha
施行期間	平成3年度～平成19年度
土地利用	
施行前	宅地96% 公共用地4%
施行後	宅地69% 公共用地31% (道路26%、公園等5%)



昭和56年事業着手前の様子

高次都市機能の集積 首都機能の一翼を担う

さいたま新都心は、首都機能の一翼を担う埼玉中枢都市圏業務核都市の中心的な拠点であり、国の行政機関をはじめとして、広域を対象とした高次都市機能が集積しています。

中核的な施設である「さいたまスーパーアリーナ」は、音楽、スポーツ、産業、文化など多様なイベントに利用されており、世界最大の可動システムにより約6,000席から約37,000席まで対応可能となっています。スーパーアリーナに隣接する「けやきひろば」は、2階部分にあたる人工地盤上のほぼ一面がケヤキの木で覆われた人工の公園であり、新都心を訪れる方の憩いの場となっています。

官庁街区では、主に関東甲信越を所掌する15の国の行政機関が同居するさいたま新都心合同庁舎のほか、日本郵政グループの施設、ラフレさいたまやプリランテ武蔵野などの宿泊施設が立地しています。

線路東側の街区には県内最大級のシネマコンプレックスを併設したショッピングモール(コクーン新都心)が立地し、賑わいを見せています。



さいたま新都心合同庁舎



市民の憩いの場所「けやきひろば」。2階部分は「空の大地」をテーマに人工地盤上に220本のケヤキの木が植栽されています。1階部分は「大地の起伏」をテーマにレストランやショップが立地しています。



コクーン新都心



さいたまスーパーアリーナ

さいたま新都心まちづくりの特色



○バリアフリーの街

2階レベルの歩行者デッキが新都心全域に張り巡らされ、随所にエレベーターなどの施設が設置されています。けやきひろば1階に設置されたふれあいプラザでは、車椅子などの貸出しや、ボランティアによるサポートが行われています。



○地球にやさしい街

日本有数規模の地域冷暖房、中水道の導入、雨水の再利用、透水性舗装、太陽光発電など資源循環システムも至るところに積極的に取り入れられています。



○ゆるやかに統一された多彩なまちなみ

「さいたま新都心景観形成方針」を基本に、関係事業者間で様々な設計・調整がなされました。そのコンセプトは「ゆるやかな統一」。各々の建物や公共空間の個性が生かされた、多様で変化に富んだ街並みが創出されています。



○災害に強い、安全の街

官庁施設が国の広域防災拠点としての機能を持つほか、さいたまスーパーアリーナは、地域避難拠点として活用されます。さらに、上水道、電気等のライフラインは災害に強い地下の共同溝に配置されています。



○情報が行き交う街

大容量光ファイバー網が次世代の業務機能をしっかり支えます。また、大型映像装置や駐車場案内システムなど、情報提供システムが整備されています。



○パブリックアート

官庁街の随所に様々なアート作品が設置されています。特に注目は、5人の美術作家と関東地方8地域284名の小学生との共同作品群。「いきいきとしたもの・いきいているようなもの」をテーマに10作品が各所に設置されています。